キャラクター名
コロちゃん

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル エンジェルハィロゥ	ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	ねこ
オプショナル		年齢	18	性別	オス
覚醒	無知	衝動	妄想	初期侵食率	34 %
出自	被験体	経験	幸せなひととき	邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	4	1	0		3	8
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	25
行動値	17
(非装備時)	17
戦闘移動	22
全力移動	44

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
(-59)125	射撃	8r+1		20		憎悪付与
(60-79)	射撃	9r+1		20		
(80-99)	射撃	10r+1		20		
(100-129)	射撃	11r+1		25		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
実験体	P	N		
霧谷雄吾	P 連帯感	N 不安		
老夫婦	P 幸福感	N 疎外感		
闇医者	P 執着	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動成功	RB	
効果：衝動判定のダイス+LV個								
オリジン:コロニー	1	2	m	至近	自身	自動成功	RB	
効果：暴走以外のバッドステータスLV個回復								
conc:exl	2	2	M					
効果：C値-LV(下限7)								
ウルトラボンバー	5	4	M	至近	範囲	射撃	-	
効果：攻+[LV*5+5]・HP0・シーン1回								
ブレインハック	1	10	M	至近	単体	白兵/射撃	-	
効果：憎悪付与・対象選択可・シーン1回								
異形の祭典	2	3	M	-	LV+1	synd		
効果：対象変更								
フラッシュゲイズ	3	3	auto	視界	単体	自動成功	80	
効果：判定ダイス-[LV*2]個								
ヒュドラの怒り	4	4	set	至近	自身	自動成功	100	
効果：M判定ﾀﾞｲｽ+3個・攻+[LV*3]・暴走								
真昼の星	★							
効果：								
生体侵入	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

三毛のオスは致死遺伝子である。

コロちゃんはおかあさんの胎のなかで死んでいたのだ、本当ならば。しかしレネゲイドの神秘によりコロちゃんは死体のままこの世に生を受ける。
そんなことつゆも知らぬ老夫婦に引き取られ、ふつうの猫として可愛がられて育つ。主人はコロちゃんにも等しく愛情を注いでくれたが先住猫達にはやや避けられていた。可愛がられたコロちゃんは自分を人間だと思ってすくすくと大きくなっていった。

先住猫たちのよそよそしい態度を当初はあまり気にしていなかったコロちゃんだったが、おばあさんが亡くなり残されたおじいさんが孤独死したあとで自分の特異性に気づいてしまう。
コロちゃんは何度も何度も道行く人に声をかけたか、その声はみゃうみゃう響くばかりでだれも取り合ってくれない。返事をしてくれるのはおじいさんとおばあさんだけで、自分は人間ではなかったのだと気づき打ちひしがれた。同時に、他の猫に主人がいた頃以上に避けられるようになった。さらに、ほかの猫達が衰弱して死んでいっても自分だけはぴんぴんしていた。この時、コロちゃんはほかの猫達とも同じでないことに気づいてしまった。
ひとりぼっちになったコロちゃんはおじいさんの腐乱した頬をひと舐めして別れを告げ、大好きなおじいさんとおばあさんの家を出た。

コロちゃんの自我はこうして芽生えた。コロちゃんの自我、それはつまるところレネゲイドそのものともいえた。そんなコロちゃんがレネゲイドビーイングとしての使命を思い出すのにそう時間はかからなかった。
コロちゃんは人間を監視しよう、否、人間に寄り添おうと決めた。一度はひとに受け入れられてしまったコロちゃんにしか抱きえない孤独を感じながら。